



TITLE:

# 手術方法の研究

AUTHOR(S):

---

CITATION:

手術方法の研究. 日本外科宝函 1934, 11(4): 876-876

ISSUE DATE:

1934-07-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203483>

RIGHT:

現症 頭部右傾シ又右ニ移動ス。右耳殻ノ下ニ瀰漫性腫瘤ヲ認ム。腫瘤ハ判然タル境界ナク胸鎖乳嘴筋ノ胸骨枝ニ移行シテキル。觸診スルニ腫瘤ハ鳩卵大彈性硬表面平滑、胸鎖乳嘴筋中ニ在ル。乳嘴突起ヨリ胸骨ノ上縁ニ至ル距離ハ右 7 釐、左 10 釐デアル。脊椎ヲ見ルト頸椎ハ左彎、胸椎ハ右彎、腰椎ハ左彎シ、骨盤モ亦稍々右ニ傾イテキル。頭部及ビ顔面ハ非對稱性ニテ顔面ノ右半ハ左半ヨリ幅廣ク正中線ハ左ニ彎曲シ、兩眼角ヲ結ブ線ト兩口角ヲ結ブ線ハ患側ニテ交ル。

カ、ル所見ニヨリ Anamnese 腫瘤ノ所見ニ疑點ハアツタガ先ヅ先天性斜頸ナラント診斷シテ手術ヲ行ツタ。然ルニ剔出セル腫瘤ハ Muskelkallus デハナクシテ、顯微鏡のニ纖維腫ノ所見ヲ呈シテキル。筋肉性斜頸ハ先天性ノモノガ多イガ、稀ニカ、ル纖維腫ニヨル斜頸モアルコトヲ報告スル次第デアル。

## 手術方法ノ研究

### 蟲様突起炎ノ手術ニ就イテ

宇 野 充

患者ハ 17 歳ノ男子慢性骨髓炎ニテ入院加療中ノ所、何等認ムベキ誘因ナクシテ急ニ腹痛ガ起リ、コノ腹痛ハ上腹部ニ顯著デアツテ同時ニ 39°C ノ發熱ガアリ、發熱前ニ少シク惡寒ハアツタガ惡心嘔吐ハ 1 回モナカッタ。當時他覺的ニハ格別ノ症狀モナク發病後 10 時間ニナツテモ腹部ガ一般ニ膨滿シテ來タノミデ腹壁緊張ナク抵抗モナク何所ニモ壓痛點ナク特ニ Rovsing ヤ Blumberg ノ症候無ク Rosenstein ノ兆候モ Rosenstein ノ逆症候モ證明出來ナカッタ。顔貌少シク苦悶狀ヲ呈シ舌ハ白色褐色ノ舌苔ヲ認メタ。放屁及ビ便通ハナカッタ。發病後約 24 時間ニナリ腹痛ハ上腹部カラ下腹部ニ移ル様ニ感ゼラレト訴フ。コノ時ノ局所症狀ハ腹部ハ一般ニ中等度ニ膨滿シ Défense musculaire ヲ認メ之ハ特ニ廻盲部ニ顯著デアリ、Mac Burney 點ニ壓痛ヲ證明スルガ Rovsing ノ症候ナク Rosenstein ノ症候モ顯著デナカッタ。膀胱尿ニ大腸菌ヲ證明セズ Ampulla re ti ノ擴張モナカッタ。即チ他覺的ニハソレ程著明ナ症狀ハナイガ廻盲部ニ抵抗ノアルコト及ビ壓痛ノアル點デ急性蟲様突起炎ト診斷シテ手術ヲ行ツタ。(發病後約 36 時間)

開腹スルト腹膜稍々充血シ稍々混濁セル滲出液少量アリ。蟲様突起ハ發赤腫脹シテ拇指頭大トナリソノ表面ニ黃色ノ附着物ヲ認メタ(コノ附着物ハ後ニ培養シタガ細菌ヲ證明セズ)。蟲様突起ハ顯著ナ波動ヲ呈シ將ニ穿孔セントスル狀態ニアツタ。盲腸部ハ Jackson 氏膜ヲ以テ後腹膜ニ硬ク固定セラレ從ツテ蟲様突起ノ根部ハ盲腸ノ後側ニ癒着固定セラレ腹腔ノ深部ニ存在シテキタ。癒着ヲ剥ガシテ蟲様突起切除ヲ行ヒ 1 週間後ニハ全治シタ。

コノ例ハ臨床的ノ症候ハ輕度デアリ而モ開腹ノ結果ハ蟲様突起ハ將ニ穿孔セントスル様ナ著明ナ變化ヲ來シテ居タ。

一般ニ蟲様突起早期手術シテ 48 時間以內ナラ宜シトカ或ハ 24 時間內ニセヨトカ云ハレ又臨床的症候輕キ時ハ以上ノ時間ヲ經過スルモ手術ヲセヨ等ト色々云ハレテ居ルガ本例ノ如キ事實カラ考ヘルト假令症候ガ如何ニ輕度デアツテモ蟲様突起炎ト診斷シタル以上即時手術ヲ行フコトガ最善ノ方法デアルト考ヘラレル。